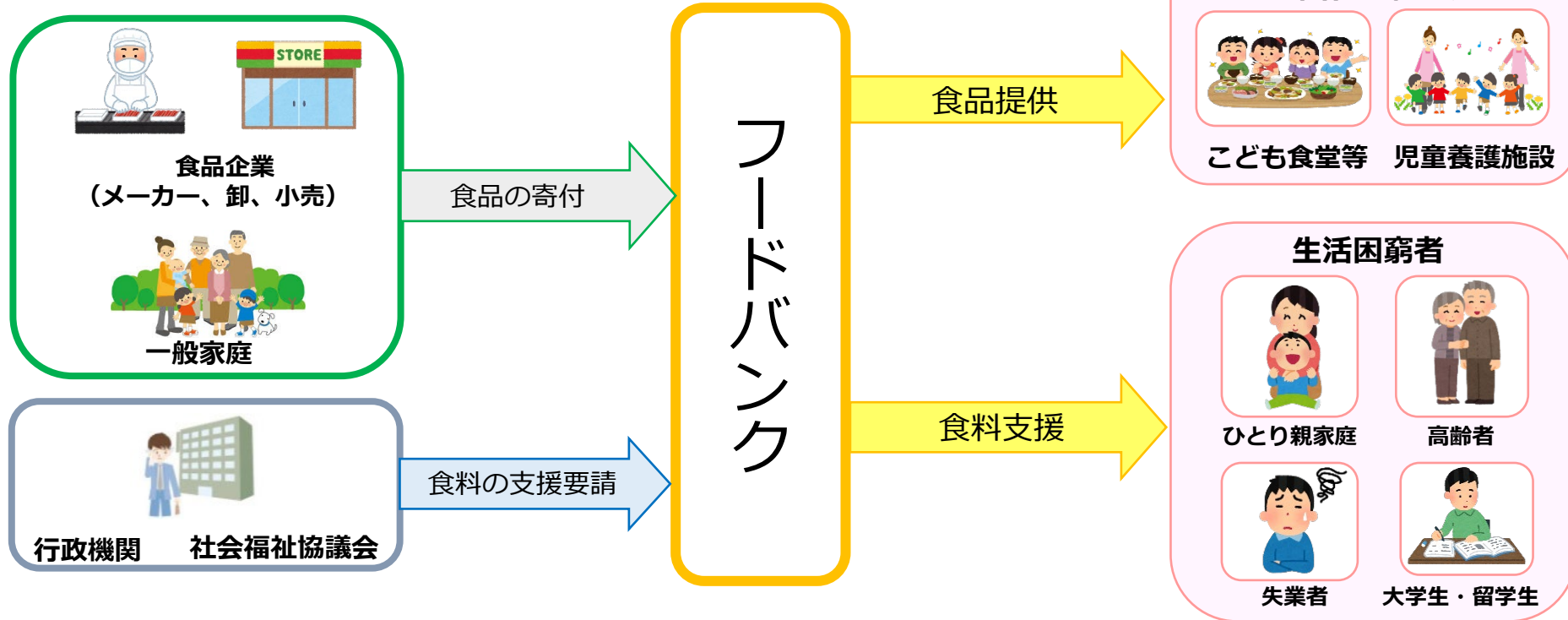


フードバンク活動の 動向と課題

一般社団法人
全国フードバンク推進協議会

国内フードバンク活動について

社会全体で食の支援を行う仕組み



- ・ フードバンクは、食品企業において包装の破損や過剰在庫、印字ミスなど、まだ安全に食べられるにもかかわらず様々な理由で通常の販売が難しくなった食品や一般家庭で余った食品などを寄付していただき、経済的な困難を抱えた世帯や福祉施設、支援団体に無償で提供する活動。
- ・ 現在、国内では178のフードバンク団体が活動。行政等と連携して困窮世帯への食料支援を実施する他、子ども食堂やパントリー団体等への食品提供も行っている。
- ・ 全国フードバンク推進協議会は、フードバンク活動を普及推進し、食品ロス削減と貧困問題解決を目指し2015年に設立

全国フードバンク推進協議会について

全国各地の**フードバンク団体の活動支援**や、**フードバンク団体の新規立ち上げ支援**、**政策提言活動**をおこなうことで、フードバンク活動を普及推進し、食品ロス削減・子どもの貧困問題解決を目指すために2015年11月に設立、2018年2月には一般社団法人格を取得。

ビジョン

フードバンク活動の推進を通して
食品ロス削減、
子供の貧困問題が解決される
社会を目指します。

ミッション

国内フードバンク団体が抱える
課題を共有し、解決を目指します。
フードバンクを取り巻く社会的
環境整備を行い、日本に
フードバンク活動が
根付くよう推進します。

加盟団体一覧 (48団体、2021年10月時点)

北海道・東北地方

- NPO法人フードバンクイコロさっぽろ
- NPO法人フードバンク岩手
- 一般社団法人フードバンクあきた
- NPO法人ふうどばんく東北AGAIN
- 一般社団法人フードバンクいしのまき
- NPO法人ザ・ピープル
(フードバンクいわき)

関東地方

- NPO法人フードバンク茨城
- NPO法人フードバンクネット西埼玉
- フードバンクちば
- NPO法人フードバンク狛江
- NPO法人フードバンクTAMA
- NPO法人フードバンク八王子えがお
- とうかつ草の根フードバンク

中部地方

- NPO法人フードバンクにいがた
- 認定NPO法人フードバンク山梨
- 特定非営利法人NPOホットライン信州
- NPO法人POPOLO
- フードバンクしばた
- 新潟県フードバンク連絡協議会

近畿地方

- フードバンク滋賀
- NPO法人セカンドハーベスト京都
- NPO法人フードバンク和歌山
- NPO法人フードバンク奈良
- フードバンクびわ湖

中国・四国地方

- フードバンク高知
- 順正デリシャスフードキッズクラブ
(学校法人 順正学園)
- フードバンクとくしま
- NPO法人フードバンク山口
- リビング下関
- ハーモニーネット未来

九州地方

- NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン
- 社会福祉法人南苑会熊本藤富保育園
(フードバンク熊本)
- NPO法人Joyステーション
(フードバンクお助けマン霧島)
- NPO法人フードバンク福岡
- NPO法人フードバンク奄美
- NPO法人フードバンク日向
- フードバンクみやざき
- フードバンクてしおて
- フードバンクそお
(財部町身体障害者協議会)
- NPO法人フードバンクさが



全国フードバンク推進協議会の取り組み

政策提言・調査研究

関係省庁に対する関係法案策定に向けた政策提言、またそれにかかる調査研究事業



広報活動

日本国内のフードバンク活動に対する認知度と信頼性の向上のための周知広報活動



フードバンク団体支援

新設フードバンク団体の立ち上げ支援や、運営ノウハウ共有、研修会の開催



寄贈食品のマッチング

企業様からの寄贈食品等の窓口となり、フードバンク活動に必要な資源を分配



政策提言・調査研究

2018年6月13日「食品ロス削減推進法案」緊急院内集会の開催



全国各地のフードバンク団体関係者や
子ども食堂、メディア、企業、一般の方々、
約100名が参加。超党派の国会議員18
名（その他秘書の代理出席は26名）が
参加

食品ロス削減推進法の成立 2019年5月24日



ロビイング期間	2018年5月～2019年5月
議員会館訪問日数	延べ30日
事務室訪問、 国会議員面談回数	278回
国会議員本人との 面談回数	47回
秘書との面談回数	231回
与党訪問回数	148回
野党訪問回数	130回

2019年5月24日

食品ロス削減推進法が成立、
同日、議員連盟の所属議員を
招いて記者会見を開催



2022年10月11日 岸田総理と車座対話



経済的な困難を抱える家庭を支援する団体関係者と車座対話

2022年10月11日 岸田総理と車座対話



物価高騰による影響、フードバンク活動の現状、課題、要望について
意見交換

首相官邸でのフォーラムに出席



2021年2月25日

内閣総理大臣を始め、各省の大臣、副大臣、NPO法人の代表など18人で構成される「孤独・孤立を防ぎ、不安に寄り添い、つながるための緊急フォーラム」に出席。

広報活動

Jリーグチームと連携し、試合当日にスタジアム前にブースを設置。事前に来場者へ呼びかけを行い、自宅にある食品などを寄贈いただく活動を実施。



2018年度は11のサッカーチームとフードバンク11団体がそれぞれ連携し開催。多くの方にご協力いただきました。



フードバンクこども応援全国プロジェクトの実施

給食のない夏休み、冬休み期間中に子どものいる
困窮世帯への食料支援を全国的に拡大するため
に、全国各地の加盟フードバンク団体と協力して
「フードバンクこども応援全国プロジェクト」を実施。

第1回

- ・ 実施時期：7月中旬～8月末
- ・ 参加団体：全国のフードバンク22団体
- ・ 支援世帯：延べ14,000世帯

第2回

- ・ 実施時期：12月
- ・ 参加団体：全国のフードバンク24団体
- ・ 支援世帯：延べ10,600世帯



第3回フードバンクこども応援全国プロジェクトの実施

支援世帯数合計

17,675世帯



セカンドハーベスト京都



フードバンク大隅



フードバンク山梨



フードバンク八王子えがお



セカンドハーベスト京都



フードバンク奄美



フードバンク山口



フードバンクてしおて

フードバンク団体支援



- 加盟団体への組織基盤強化支援
（個別にコンサルティング）
- 新設団体の立ち上げ支援（WEB）
- 研修会の開催



協力食品企業様 (一部抜粋)

LAWSON

掘りだそう、自然の力。

Calbee

生きるを、しなやかに。

Q'SAI



明日をもっとおいしく

meiji

Coca-Cola

BOTTLERS JAPAN INC.

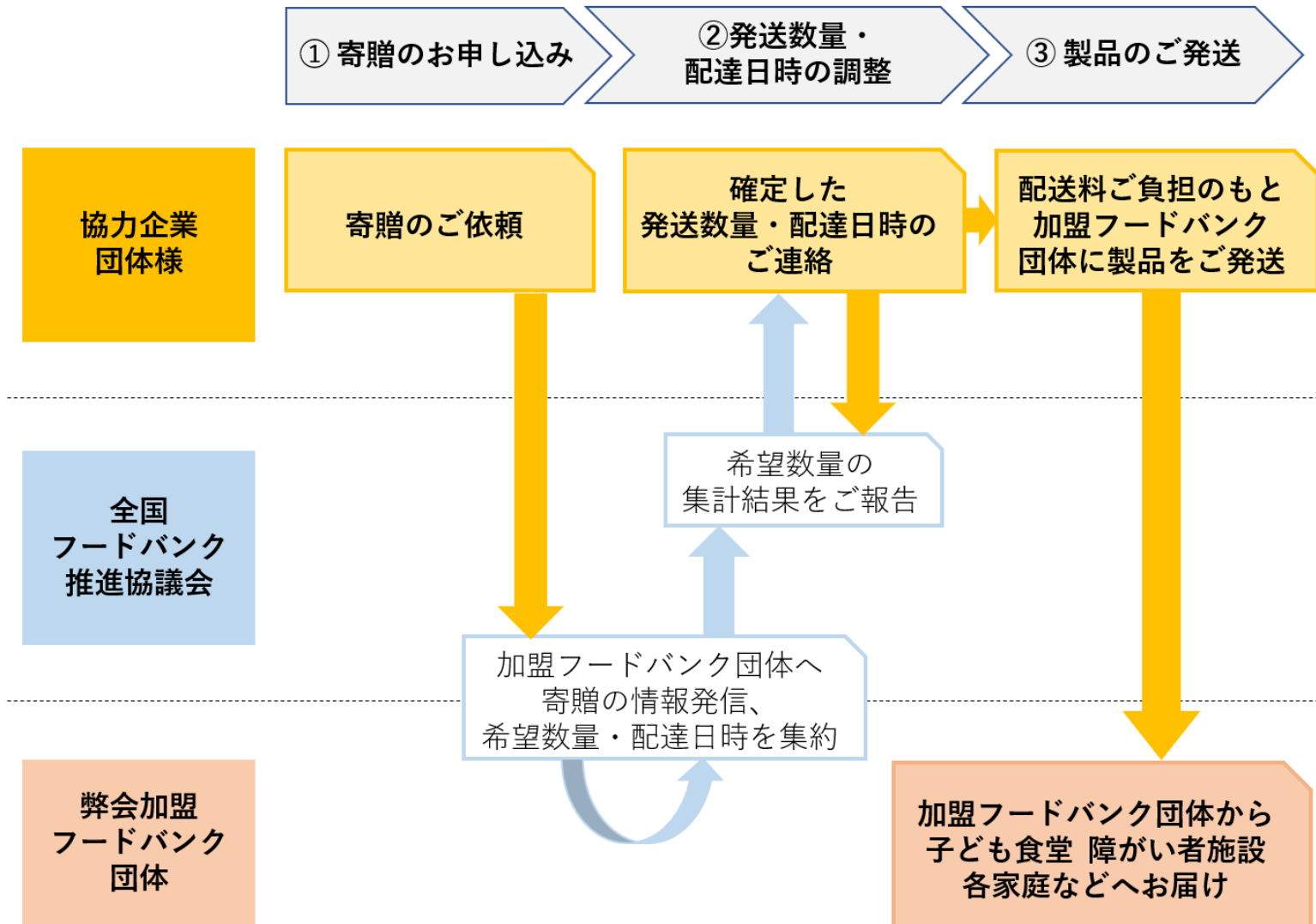
marukome

日本のあたたかさ、未来へ。

素材、きわだつ。

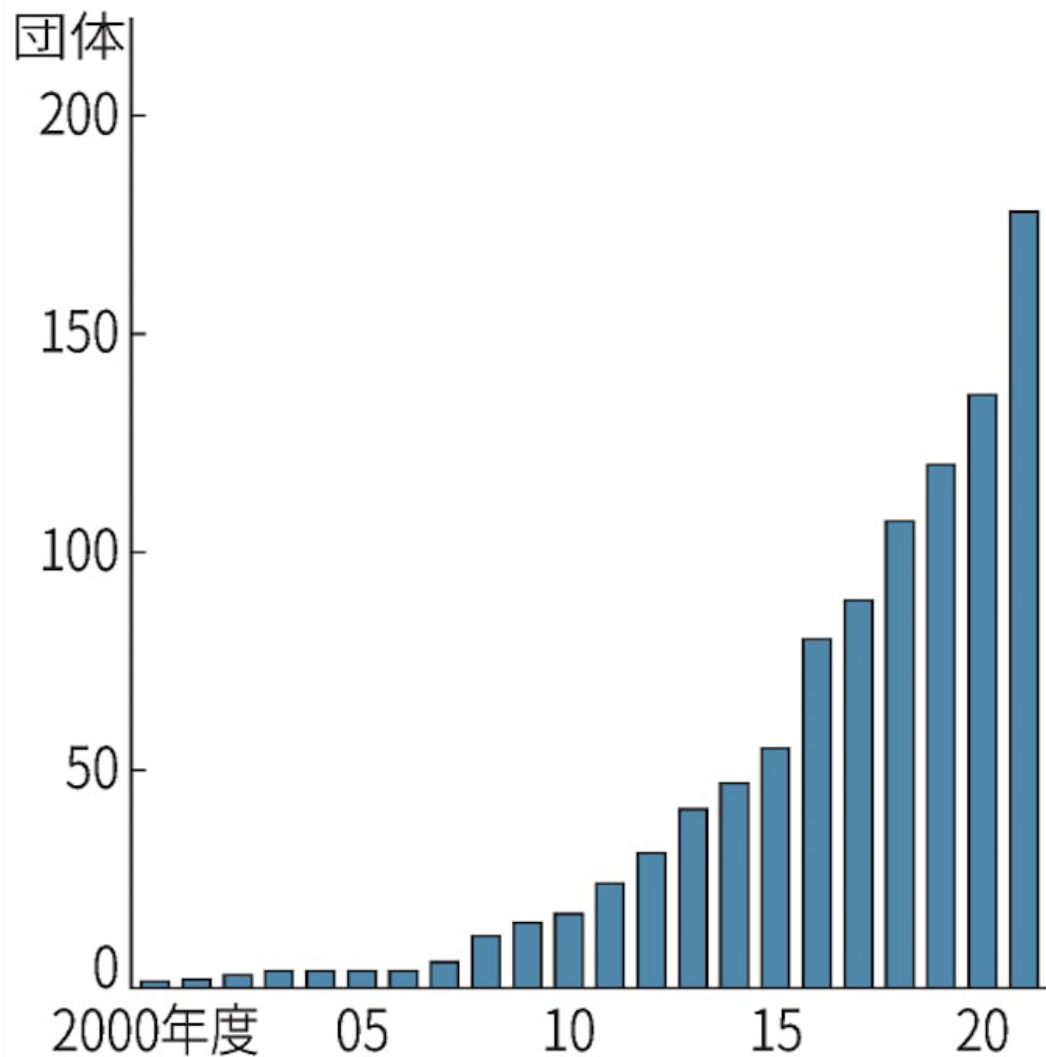
モランボン

食品寄贈の流れ



国内フードバンク活動の広がり

国内フードバンクの団体数推移



この5年間でフードバンクの団体数が倍増

2017年：89団体

2022年：178団体

出典：日経新聞 2022年5月25日 フードバンクに品不足懸念 物価高騰で寄付減少

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO61123710V20C22A5CT0000/>

コロナ禍におけるフードバンク活動

認定NPO法人フードバンク山梨実績（2020年3月～2021年3月）

コロナ禍緊急食料支援 計3,711件

3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		令和3年 1月		2月		3月	
①	②	③	④				⑤				⑥		⑦	⑧		⑨	⑩	⑪	⑫		⑬	⑬	⑭		
就学援助世帯	就学援助世帯	就学援助世帯	乳幼児世帯				大学生支援				留学生支援		大学生支援	乳幼児世帯		大学生支援	失業者支援	留学生支援	失業者支援		就学援助世帯	失業者支援	失業者支援		
709	56	752	118				82				181		39	137		94	109	281	108		850	75	120		

コロナ禍緊急食料支援

3,711件



通常支援

6,882件



10,593件

昨年の

2.1倍

貧困の実態

調査名：乳幼児期の貧困の把握に関するアンケート調査結果【保育士向け】

調査対象：山梨県内の保育市施設に勤務する保育士

設問：園児が貧困世帯で育てられていると思ったのは、どのような場面・状況であったか。（記述回答から一部抜粋、原文ママ）

- おなかがすきすぎて、自分の分の給食だけでは足りず、他児の食べこぼしを拾って食べていた。
- 食に関して異常な食欲さ。おかわりがないと崩れ落ちて泣く。床に落ちている食べかすや自分の足の裏についたごはん粒などちゅうちょなく口へ運ぶ
- 日々の食事の内容…（例）白飯のみで、お腹が満たされない時は水道水
- 朝食を食べておらず、外へ遊びに行ったが、フラフラと部屋の方へ歩いて戻ってきて、テラスに倒れ込んだ。
- 給食やおやつをすごい勢いで食べ始める 量が給食量だけでは足りず泣く
- 子どもの機嫌が悪い時に朝ごはんを食べたか聞くと、「たべてない。なんにもなかった。」とよく答えていた。

貧困の実態

- 穴があいた靴下やズボンを何度もはいていてあまりに穴が大きくなったので縫ったことがある。
- 衣類がカビている、サイズのあっていないものを着ている。着替えていない（何日も）
- 靴下に穴が開いているのにもかかわらず、毎回履いている（下着等も）服のサイズが合っていない（ズボン、長そでetc）
- お風呂に入っていない。虫歯が多い。病気やケガの手当てができていない。
- 夏の猛暑の中でもお風呂に入れず、体が汚れていたり臭いがきつい。いつも穴のあいた服や靴下をはいている。ボロボロになった上ばきを買ってもらえない。
- 服が清潔ではない。体が大きくなったにもかかわらず、小さいサイズの服を着ている。

物価高騰の影響

食料支援が必要な困窮世帯：**増加**
フードバンク団体の業務量：**増加**

支援に必要な食品寄贈：**減少**
ボランティア参加者：**減少**

国内フードバンク団体の共通課題

全国のフードバンク団体は、以下の共通課題が原因で食品取扱量を増やすことができていない。

- ① インフラ整備（事務所・倉庫・配送用車両等）
- ② 人手不足
- ③ 運営費の不足
- ④ ノウハウの不足
- ⑤ 認知度不足
- ⑥ 食品寄贈に伴う法的リスク
- ⑦ 行政との連携不足

今後の展望

フードバンクの広域ネットワークについて

中核フードバンク 設立の動き

フードバンクかながわ 2018年3月

福岡県フードバンク協議会 2019年4月 ・ ・ ・

背景

- ・ 各FB団体は運営基盤が弱く、食品の保管や配送態勢が十分に整っていない。
- ・ 企業が食品を寄付する際は、それぞれの団体と合意を結ぶ必要があった。
- ・ 企業からの寄贈窓口を一本化し、支援企業の開拓やフードバンク団体の立ち上げ支援を進めることで、フードバンクの地域間格差の解消を目指す。

広域ネットワークのメリットと意義

(1) 寄贈企業側のメリット

- どの団体に寄贈したら良いか明確
- 大きなロットでの寄贈も可能
- 契約をそれぞれの団体を結ばなくても良い
- 複数の団体との調整コストの負担低減

(2) フードバンク団体側のメリット

- 1団体では受けられない量の食品寄贈が受け入れ可能に
- 寄贈食品の共有
- 情報やノウハウの共有

(3) 広域ネットワーク意義

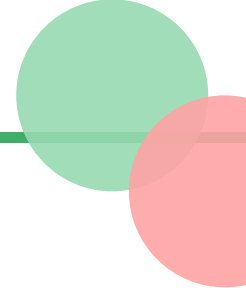
- 食品寄贈側が寄付しやすい仕組みを作り、食品やノウハウを共有することによって地域格差を解消、その地域のフードバンク活動を推進

フードバンク活動のご紹介

NPO法人フードバンクネット西埼玉の取組と課題

丸茂 真依子

NPO法人フードバンクネット西埼玉 代表理事



2015年12月～

困窮者支援の現場から、**食支援の必要性**

個人世帯で消費するにふさわしいもの
それぞれの世帯に添ったきめ細かい支援

他地域で追随して立ち上がるフードバンク団体も

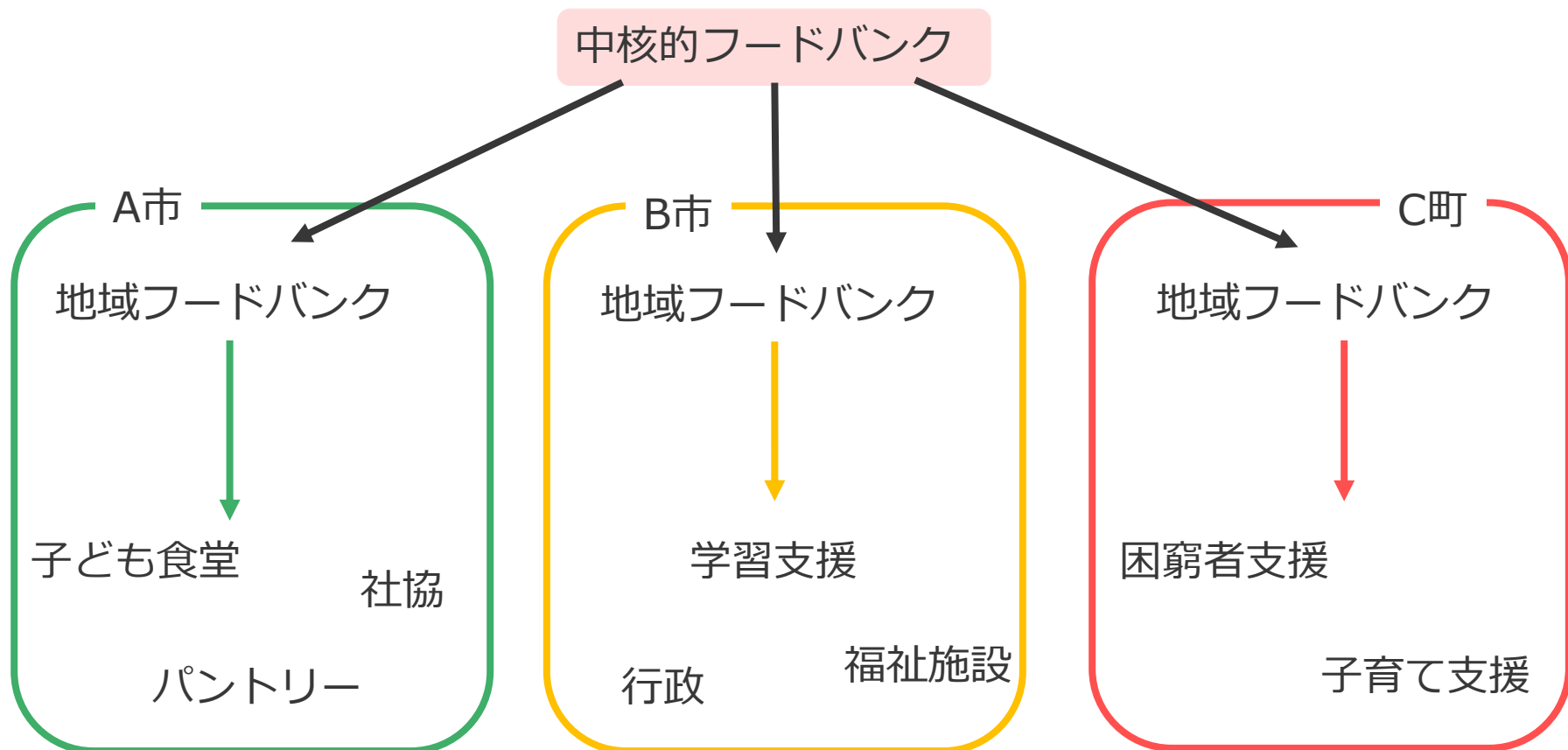
各地域のフードバンクによるネットワーク形成が必要

2017年7月 NPO法人フードバンクネット西埼玉 設立



食のセーフティネット

各地域ごと、フードバンク団体を中心とした
効率的できめ細やかな食支援のしくみ



活動範囲とネットワーク

フードバンクいるま
フードバンクよしみ・かわじま
フードバンクみよし

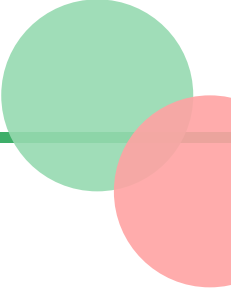
各地域の行政、社会福祉協議会

各地域で活動する食支援団体
など

埼玉県内の**17**の市町村において
約**40**の団体とネットワークを形成

年間取扱量 約**40**t
(各地域フードバンク取扱量)

中核的フードバンクとは

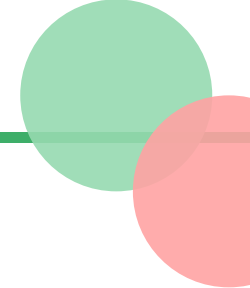


食のセーフティネットの**中核**

各都道府県に **1～2** 団体が適切※と考えます ※人口による

主な役割：県レベルの行政や社会福祉協議会との連携
全国・全県レベルでの企業との連携
各地域フードバンクの支援（食品、団体運営など）
他県のフードバンクとの連携 など

フードバンクネット西埼玉の见解です



地域で余っている食品を地域内で活用

中核拠点で集約する必要があるため、
配送コストの削減、素早い提供が可能

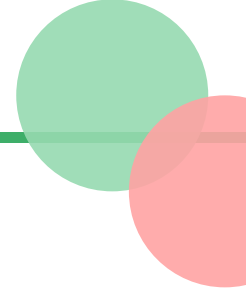
各地域の特性に合った活動を展開できる

農業が盛んか、物流が盛んか、
どのような団体が展開しているのか...

拠点ごとの強みを生かし全体のネットワークを支えることができる

県内の米どころの拠点、
企業からの寄贈品が多く入る拠点、
配送車を持っている拠点...





地域フードバンクの育成、県内のフードバンク等と連携強化

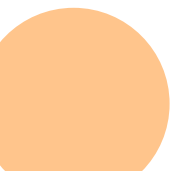
埼玉県内にはフードパントリーや子ども食堂のネットワークもある

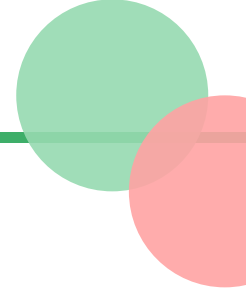
埼玉県内の行政・企業との連携をさらに深める

フードバンクの活動の広さと行政の縦割り構造...

教育との連携をすすめ、次世代への働きかけを

幼稚園～大学まで参加できる活動がある



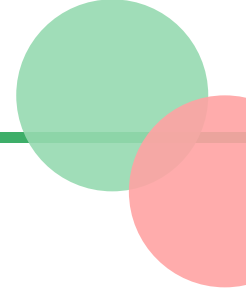


なぜ足りないのか

報酬の出ないボランティア活動
平日昼間がおもな活動時間
倉庫作業は重労働
コアメンバーはフルタイムで関わる必要がある

生活費を稼ぐ必要のある若い世代が参加しづらい
シニア世代には重労働はつらい
新しい人材を教育する余裕がない
広く募集する経費・広報力がない

助成金などを活用しパート待遇でスタッフを確保
大学ヘイインターンやボランティアの募集



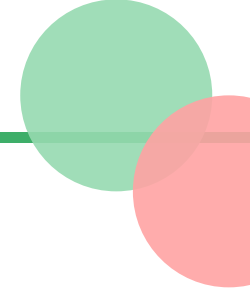
不足しているスキル

営業、物流、広報、web、経理...

専門知識を持つメンバーがいない
確保には運か経費が必要

意外に確保できないのがPCに慣れている人

行政などの支援を活用し専門家派遣を受ける
プロボノやインターンによりスキルを持ったスタッフを確保



活動予算

2022年11月現在の規模で年間1,000万円

フードバンク活動は事業収益を得てはいけない
無償で預かって無償で渡す

行政から委託事業を任されるまで、
認定NPOを取るまでには時間がかかる

少しでも寄付金を集める努力をしつつ助成金で時間稼ぎ



食支援が必要な社会である、という現実



地域に住む一人ひとりが取り組めること、
地域の柱である企業の皆さんにしかできないこと、
たくさんあります

どうか、みなさんの地域での食支援活動を支えてください

ご清聴ありがとうございました